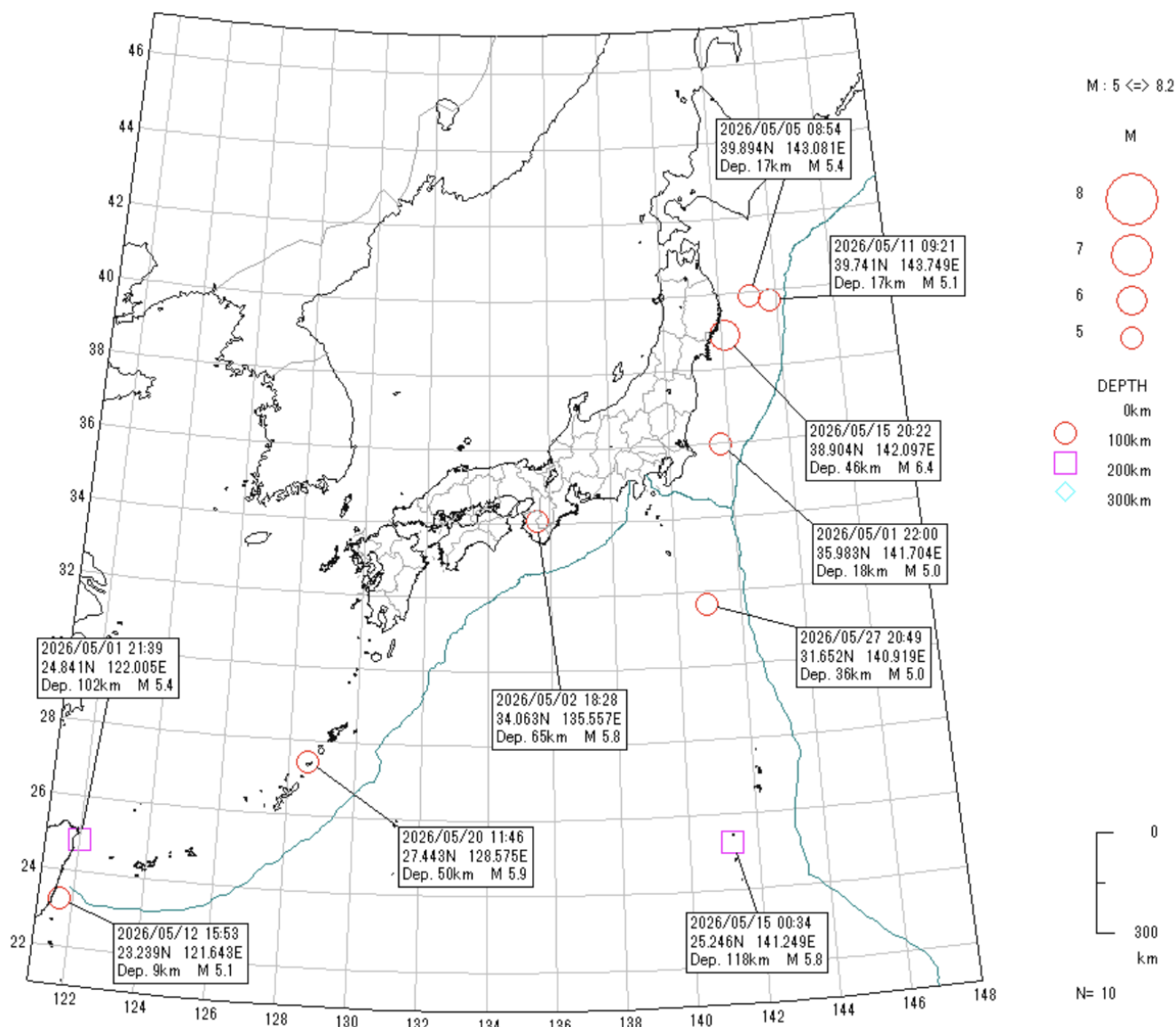


2026年5月の地震活動概観

5月には日本列島および周辺海域でマグニチュード5を超える地震は10個発生しました。その中で最大のは5月15日に岩手沖で発生したマグニチュード 6.4 の地震で、宮城県で震度5弱を観測しました。

2026 5/1 0:0 -- 2026 5/31 23:59



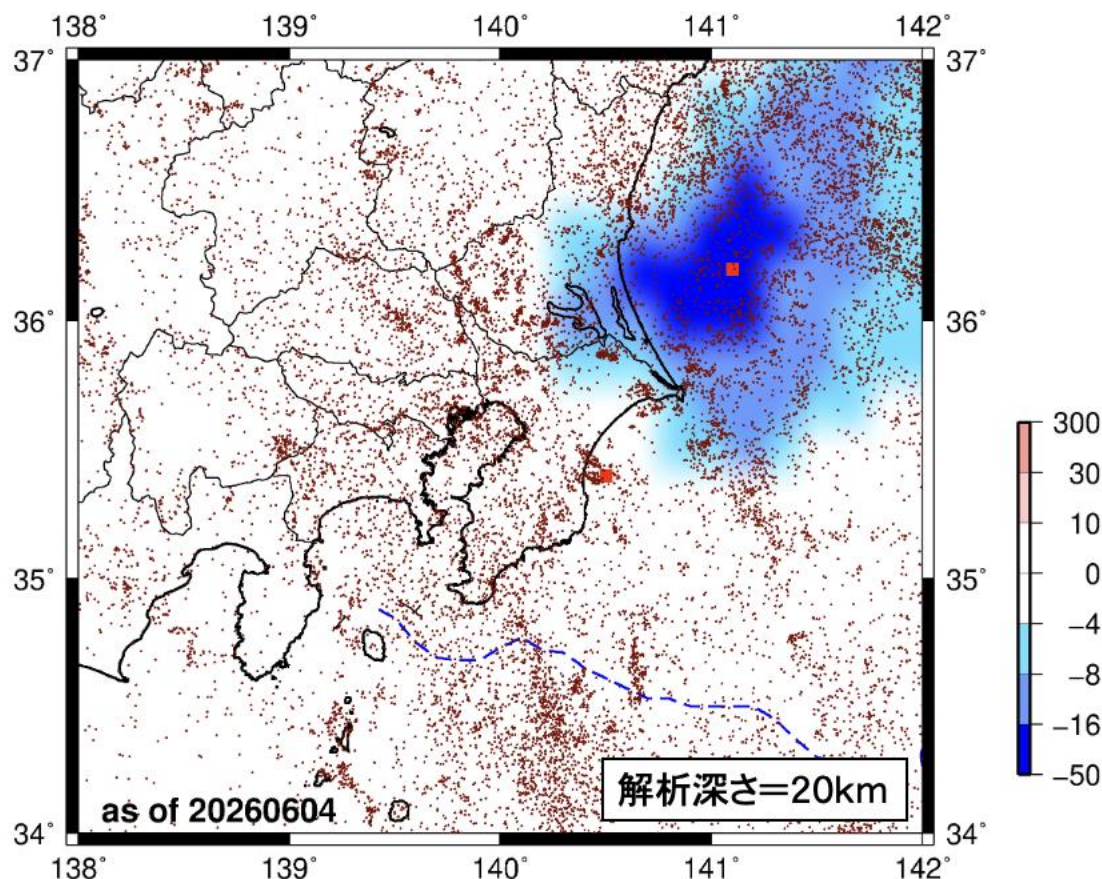
また5月20日には沖永良部島付近でマグニチュード 5.9 の地震が発生しています。この地震で与論島では、震度5強の揺れを観測しています。また月はじめの5月2日には紀伊半島でマグニチュード 5.8 の地震が発生し、三重県、奈良県、和歌山県の広い範囲で震度4の揺れとなりました。これはこの地震の震源が70kmと深かったためと考えられます。

紀伊半島では長い間、地震活動静穏化の異常が継続していた事を DuMA では報告しておりました。この地震活動静穏化に対応して発生した地震と考えています。この地震は想定されている南海トラフ巨大地震の深部延長上で発生した地震で、内陸の活断層の地震より深く、沈み込んだフィリピン海プレート内部が破壊した地震でした。



首都圏の地下天気図®

2026年4月27日のニュースレターに続き、首都圏の地下天気図です。次にお示しする図は6月4日時点の M タイプ地下天気図で、解析の深さを地下20kmとしています(20kmの深さを基準として、水平方向の距離だけでなく、地震発生の深さも考慮して静穏化等の計算を行なっています)。



3月9日のニュースレターでは、茨城県沖の地震活動静穏化領域(図中で青い領域)がかなり薄く(小さく)なり、静穏化が解消傾向である事をお伝えしました。4月27日のニュースレターでは青い領域が再び濃くなり、静穏化が進行している事がわかりました。

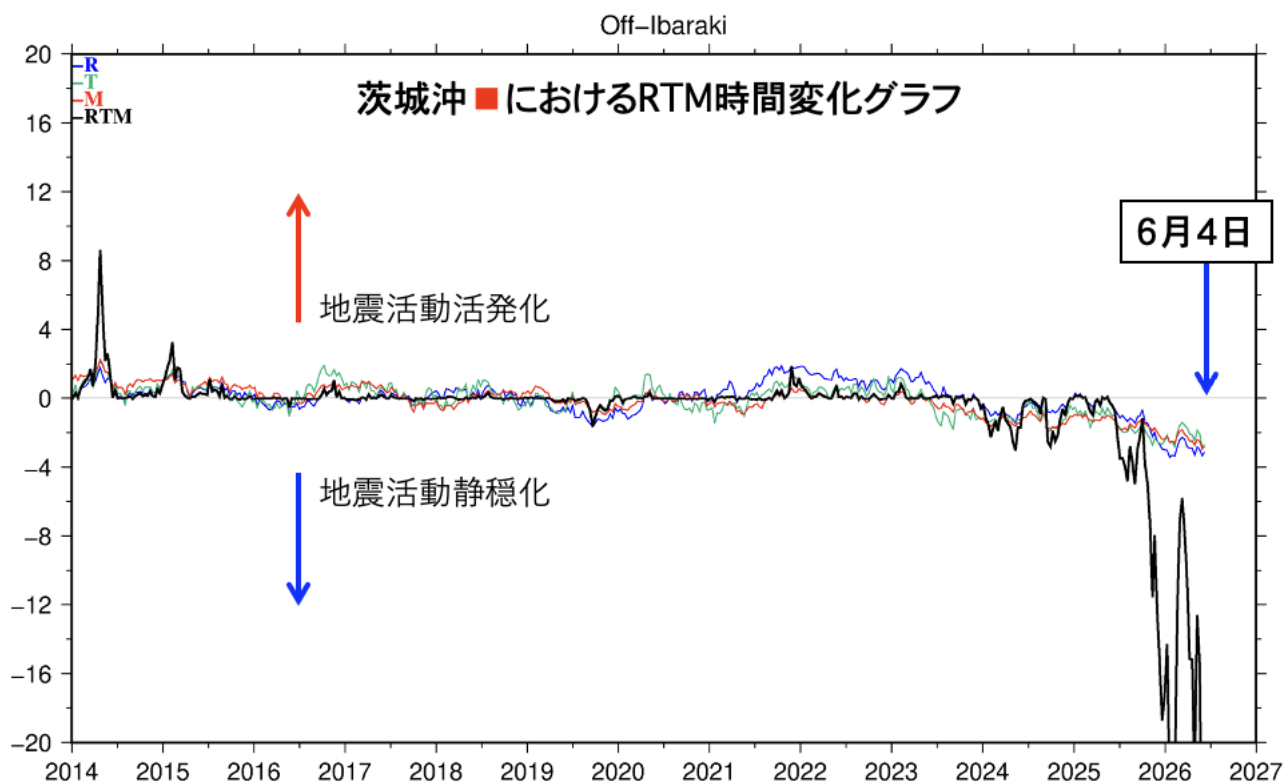
過去の経験則が正しいのであれば、DuMA としては茨城県およびその沖合、千葉県およびその沖合での地震発生の可能性はもうしばらく先であると考えています。これは経験則では、静穏化が解消してから該当する地震が発生する事が多いためです。

また、地震は静穏化の中心で発生する事もありますが、7割ほどは静穏化の周辺部で発生しています。すなわち現在の静穏化は茨城県沖の海域が中心となっていますが、茨城県や千葉県北部の陸域で発生する可能性も存在する事を知って頂ければと思います。

次のページに茨城県沖の ■ で示した地点における RTM 時系列変化のグラフをお示します。グラフが下に行っている場合が地震活動静穏化に相当します。



グラフは2025年の後半から静穏化が開始し、それが2026年初めに一度下側のピークを示し、それから一度上のほうに回復(2026年3月頃)したものが、再びグラフが下側に大きく動いている事がわかります。



このように地震活動にはゆらぎがある事をご理解頂ければと思います。